

ベルジ吉岡たやの家

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年4月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200205
法人名	タクミ工業株式会社
事業所名	グループホーム ベルジ吉岡たやの家
所在地	群馬県北群馬郡吉岡町上野田96 (電話) 0279-30-6060
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日
ユニット数	5 ユニット
職員数	総計 39人
利用定員数計	45 人
総計 常勤	21 人, 非常勤 18人, 平均 常勤換算 4.9

(2) 建物概要

建物構造	①鉄骨造り 2階建ての1~2階部分
	②鉄骨造り 3階建ての1~3階部分 計2棟

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他経費(月額)	美容・オムツ・光熱・テレビ電気	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間4年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	43 名	男性	17 名	女性	26 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	20 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.5 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上武呼吸器科内科病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“利用者の笑顔が見られる介護”をモットーに管理者、職員は連携を密にしながら、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。利用者一人ひとりが、その人らしく暮らせるよう、思いや意向の把握に努め、温かく見守りながら支援している。研修の充実を図っており、職員は法人内・外の研修に交代で参加している。自治会に加入し、地域行事に参加したり、管理者が町主催の講演会「認知症について」の講師を務める等、地域住民や行政機関と積極的に交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>鍵をかけないケアの実践については、職員や家族等で検討しているが、各ユニットの入口扉は施錠されており改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解しており、全職員で各ユニット毎に自己評価に取り組み、ホームとしての自己評価をまとめ管理者が記載を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームへの理解を深めてもらうことを重点としている。ホームから状況報告、前回の検討事項等の経過報告、評価の説明・報告等を行っている。参加メンバーからの意見・要望を受け話し合いを行い、出された意見等はサービス向上に活かしている。自治会に加入したことにより、町内の防災相互協力体制に加わることができた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1回、近況報告等を記載した便りと写真を家族へ送付している。運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等聞くように努めている。目安箱を設置している。出された意見や苦情等には、速やかに対応し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、道路清掃等に参加している。散歩時に近隣の人々と話をしたり、花を頂くこともある。小学生の社会科学習、中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。地域の夏祭りに参加したり、図書館や老人センターの利用、買物や外食会等で地域の店を利用し、地域住民との交流に努めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一日一回は入居者の笑顔を引き出せる対応を行う」ために『笑顔』を理念に掲げており、この他にも家庭的な笑顔をこぼれる雰囲気の中で地域との交流も重視した実践を指針にしている。更に法人共通のテーマとして「見守り」を課題に取り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するため、毎日の朝礼・申し送り時やミーティング、ユニット会議等で理念を共に意識しながら話し合い、ケアの方向性を確認している。日々の生活の場において、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、道路清掃等に参加している。散歩時に近隣の人々と話をしたり、花を頂くこともある。小学生の社会科学習や中学生の体験学習の受け入れをしている。地域の夏祭りに参加したり、図書館や老人センターの利用、買物や外食等で地域の店を利用し、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価については、各ユニットで全職員に意見を聞き、まとめたものを管理者が記載している。外部評価の結果についても、ユニット会議で検討し具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームへの理解を深めてもらうことを重点としている。ホームから状況報告、前回の検討事項等の経過報告、評価の説明・報告等を行っている。参加メンバーからの意見・要望を受け話し合いを行い、出された意見等はサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は利用者の状況報告や相談等で町の窓口へ出向き、担当者と連携を図りながらサービスの向上に取り組んでいる。管理者は吉岡町の依頼により、町民に向けての講演会「認知症について」の講師を務めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や生活状況について報告をしている。電話で受診前後の報告や相談等個々に合わせた報告を行っている。月1回、担当者が近況報告等を記載した「便り」と写真を家族に送付している。金銭管理の報告は定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等聞くように努めている。目安箱を設置している。意見や苦情等には速やかに対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの職員とのかかわりを大切に考えており、職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は、利用者・家族等に紹介し、1～2ヶ月間は管理者や先輩職員が基本的な対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われている職場内研修や実践者研修・拡大ファーストステップ研修・介護技術の基本・成年後見制度・薬の飲み方等の外部研修に職員が交代で参加し、会議で研修内容の報告をしている。報告書を作成したり資料を回覧し、職員は情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、大会やレベルアップ交換研修、見学研修に参加している。管理者は、地域の医師を講師に招き、中・北毛ブロック主催「認知症について」の講演会を企画・開催した。地域の同業者と交流する機会を持ちながら、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族等に説明を十分に行い、聴き取りを行っている。見学しながらホームの雰囲気や様子等を見てもらい、納得して利用できるよう支援している。入居後も職員が個別に寄り添ったり、家族に数日泊まってもらおう等、一人ひとりに合わせた対応をしながら徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩である利用者から、日常生活場面で昔の話を聞いたり、植木の剪定・蕎麦打ち・調理方法・おやきの作り方等教えてもらう事も多く、褒めてもらう事もある。笑いのある楽しい日々を過ごせるよう、共に支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の言葉や表情、筆談、行動等から、思いや意向を把握するよう努めている。家族等からも生活暦等を詳しく聞き取り、その情報を職員間で共有しながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には、日頃のかかわりの中で思いや意向を聴き、介護計画に反映させるよう努めている。ユニット会議で毎月モニタリングを行い、それぞれの意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。毎日の様子観察や記録を基に、ユニット会議で話し合い、本人・家族に説明し確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望や状況に応じて、通院・受診介助、買物支援、自宅・美容院・パチンコ店への送迎、図書館・墓参りへの付き添い等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者が重度化し看取りの必要が生じた場合における対応等の指針」を作成しており、入居時に本人・家族等に説明している。本人・家族等ならびに医師等、関係者で繰り返し話し合い、その時々家族等の意向を確認しながら、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職場内研修を行い、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応等について、職員間でお互いに注意を払いながら介助をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら、散歩、入浴、テレビ鑑賞、食事の時間、起床や就寝時間、清掃等の役割、レクリエーション等、できるだけその人らしく暮らせるよう希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が野菜の下ごしらえ、盛り付け、お茶入れ等職員と一緒にやっている。利用者の希望を献立に採り入れ、鍋物や蕎麦打ち、ホットプレートを利用したお好み焼き、手作りおやつ等、食事が楽しいものになるよう工夫しており、外食会も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日入浴できる体制になっており、朝から夜まで対応している。一人ひとりの希望に沿って入浴してもらえるよう、言葉かけ等にも工夫をしている。入浴日が偏らないように、ある程度入浴日を決めて支援している。温泉の足湯に出かけることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	清掃、洗濯物たたみ、おしぼり巻き、スリッパ拭き、手すり拭き、カーテンの開閉等、一人ひとりの生活歴や力量に応じた役割の支援を行っている。また風船バレー、貼り絵、書道、のれんづくり、買物、ドライブ、季節の花見、ぶどう狩り、りんご狩り、誕生会、外食会等で楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭で日光浴をしたり、天気が良ければ毎日散歩に出かけている。ドライブや買物、季節の花見、外食会等もできるだけ希望に沿うよう支援している。パチンコ店や競輪場、図書館や県庁の展望室等へも出かけており、一人ひとりの希望に沿って、気分転換が図れるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全やトラブル回避のため、家族等に同意を得て、ユニット入口扉を施錠している。本人の希望で、居室を施錠する場合もある。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で、出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、(1回は消防署の指導を得て)避難誘導訓練、消火訓練を実施している。自治会に加入し、町内の防災相互協力体制(連絡網・防災無線)に加わり、役場、消防署とも連携をとりながら、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回、栄養士により栄養バランス等の管理をしている。食事量や水分量を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。脱水には注意を払っており、入浴後の水分補給や夜間にも水分補給ができるよう、枕元にペットボトルを置いている。利用者の体調に応じて、刻み食やとろみ食等の配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口にプランターの花を設置している。中庭には木製ベンチ等を設置し、利用者が日光浴をしたり、季節の花木を楽しめるよう配慮している。ホールにはテレビやソファ、観葉植物等が置かれ、壁には行事の写真や季節毎の利用者の作品等を掲示している。ホールの窓からは四季折々の里山の風景が眺められる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、整理箆笥、衣装ケース、テレビ、籐の椅子、縫いぐるみ、家族の写真、炬燵、カレンダー、養命酒等、馴染みのものや好みものが持ち込まれており、安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		